

乾燥性皮膚疾患に対する低刺激肌着の検討

Clinical Effects of Barrier-free Underwear for Xerotic Skin

抄録

乾燥性皮膚疾患に対して、肌着が皮膚病変・自覚症状・生活の質に与える影響を主観・客観的に解析した。乾燥性皮膚疾患を有する20歳以上の患者33名を対象とし、被験試料はグンゼ株式会社が販売している完全無縫製の肌着（メディキュア®）を使用し、開始後14日後および28日後に評価した。紅斑・乾燥・掻破痕は14日および28日後共に有意な改善が認められた。結節・苔癬化は28日後に有意な改善が認められた。経表皮水分蒸散量は28日後に有意に減少した。そう痒によるVAS scoreは14日および28日後に、疼痛によるVAS scoreは28日後に有意に減少した。DLQI scoreは14日後・28日後に有意に減少した。研究終了まで明らかな有害事象は認められなかった。本研究品の肌着を着用後、各皮膚病変はいずれも有意に改善し、また、経表皮水分蒸散量・VAS・DLQI scoreも有意に低下した。以上の結果より、本研究品の肌着が、皮膚との摩擦を軽減することで、バリア機能を改善させ、その結果、乾燥によるそう痒や疼痛・皮膚病変も軽快し、患者の日常生活の満足度が高くなったと考える。よって、乾燥を有する皮膚には、日常のスキンケアに加え、縫い目や肌着の素材などを考慮し、刺激の少ない肌着を選ぶことが重要であることが示唆された。(皮膚の科学, 16: 266-273, 2017)